

# 薬用作物ヤマトトウキにおける葉と根の同時生産方法の検討

## ～ 根は薬用に、葉は食用に 高収益栽培を目指して ～

薬用作物ヤマトトウキにおいて、食用の葉を夏に、薬用の根を冬に収穫する作型を検討しました。その結果、葉を全部収穫せずに部分的な収穫にとどめる方が、株の枯死を防ぎ、根の収量への影響も小さくできるため、この作型に適していると考えられました。

### 1. 背景と目的

ヤマトトウキは、多くの漢方薬に使用されている主要薬用作物です。ニンジンやセロリと同じセリ科の植物で、独特の香りが特徴です。県内では古くから栽培が盛んでしたが、生産者の高齢化や、輸入品の台頭などにより、生産量は著しく減少しました。

ところが近年、漢方薬の人気が高まりつつあり、安全安心な国産薬用作物の生産拡大が望まれています。そこで、県では「漢方のメッカプロジェクト」の一環としてヤマトトウキの生産復興に取り組んでいます。

しかし、生産には課題もあります。まず、栽培期間の長さ（育苗に1年、定植から根の収穫・乾燥調製までさらに1年）、また、出荷先が医薬品を扱える所に限られること等です。

そこで、葉の利用に注目しました。葉は根と異なり、基本的には医薬品としての規制を受けません（効果や効能を標ぼうしない場合に限り）。そのため、普通の野菜と同じように食利用が可能で、出荷先も選びません。また、根の生育途中でも出荷が可能です。そこで、葉の収穫が根の収量に及ぼす影響を調査しました。

### 2. 研究成果の概要

葉の収穫は、生育の良い株を選んで、8月に実施しました。葉を全部収穫する区、葉を半分だけ収穫する区（図1）、葉を収穫しない区の3区に分け、葉の収穫量（葉身だけの生重量）を調査しました。また、12月には根を掘り上げて乾燥し、収量を調査しました。

その結果、葉を全部収穫した区で葉の収量は118g/株となりました（図2）。ただし、収穫後に約18%の株が枯れてしまい（図3）、生き

残った株の根の収量も、葉を収穫しない場合と比べて約44%減少しました（図4）。一方、葉を半分だけ収穫した区では、葉の収量は77g/株となりましたが、枯れる株は無く、根の収量減も約14%にとどまりました（図2、4）。

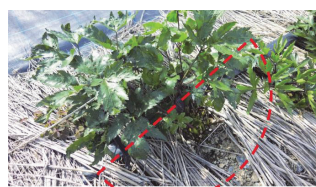


図1 葉を半分だけ収穫した株  
赤字点線は収穫範囲を示す

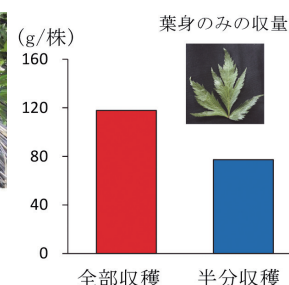


図2 株あたりの葉の収量



図3 枯死株  
葉を全部収穫した区のみ約18%の株が枯死した

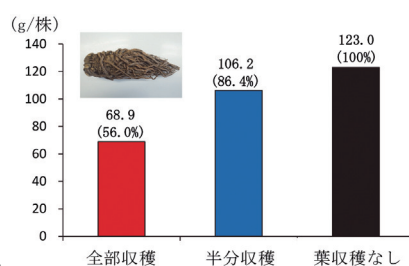


図4 株あたりの根の収量

このことから、夏期の葉収穫では、最大120g/株近くの収量が得られますが、全部刈り取ると根への悪影響が強く、一部は枯死したため、根も収穫したい場合は、葉の収穫を部分的にとどめた方が良いと考えられました。

### 3. 実用化に向けた対応

今回の試験では、葉の部分収穫として半分を収穫する方法のみ検討しましたが、今後はさらに様々な収穫程度や回数について検討し、生産者の個々のニーズ（葉と根のどちらを重視するか）に合わせた栽培方法を提供できるようにしていきたいと考えています。

（薬草栽培ユニット 米田 健一）